

病院紹介



インフルエンザ流行の兆し

年末年始にかけて全国的に、新型コロナウイルス感染症の拡大が再びみられ、医療現場はひっ迫し始めてきています。また、今年はインフルエンザ感染症の流行も懸念されており、すでに京都府南部の山城方面では流行し始めています。この状況は、京丹波町にもいずれやってくると思います。

この時期における当院の発熱外来は、発熱症状が同じようにみられる新型コロナウイルスとインフルエンザの診察となります。そのため医師でも、問診だけではどちらの感染症かを判断するのは困難な場合があります。そんな時は治療方針を判断するためにも検査で判別することが必要となります。以前、紙面で紹介しましたが、京丹波町病院には新型コロナウイルス感染症かインフルエンザ感染症かを同時に判定でき、インフルエンザの型まで判定ができる検査キットがあります。特に小児科に受診されるお子さまなどにとっては、苦痛な鼻粘膜検体の採取を一

度で済ますことができるうえ、10分から15分で結果が出ますので、患者さまにとってはとても有効な検査です。ただし、このキットを使用するかどうかは医師の判断となりますので、ご理解のほどよろしくお願いします。

感染症を疑う症状が現れ発熱外来を受診される場合は、事前予約が必要です。平日の午前8時30分から電話にて予約をお願いします。

できるだけ感染しないようにマスクの着用、外出から帰られた時の手洗いやうがい、アルコールによる手指消毒などに心がけ、人が混みあう場所への外出をできるだけ控えるなど、予防を心がけましょう。

国保京丹波町病院 Tel86-0220



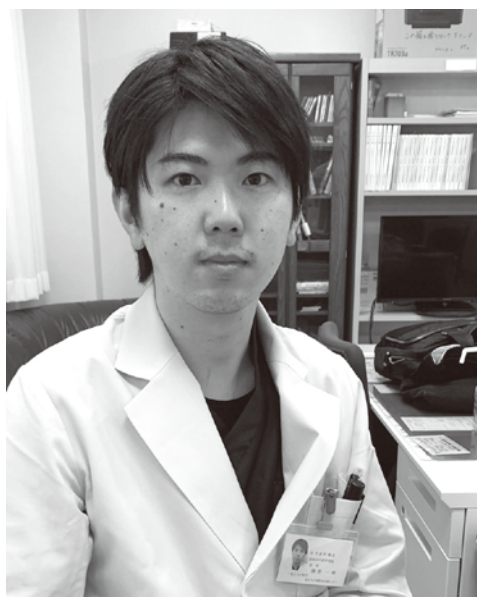
いきいき健康術



たばこの肺への影響 ～慢性閉塞性肺疾患(肺気腫)について～

国保京丹波町病院 水曜日の一般外来
国保京丹波町病院和知診療所
火・木曜日の総合内科 担当

陣野 一輝 医師



慢性閉塞性肺疾患(肺気腫)についてご存知でしょうか。慢性閉塞性肺疾患とは、長期的な喫煙により気道に慢性的な炎症が起こり、肺の構造が破壊され、咳・痰・呼吸困難を生じさせる病気です。従来、慢性気管支炎や肺気腫などの病名で呼ばれていました。

喫煙率は近年低下していますが、依然として500万人ほどが慢性閉塞性肺疾患に罹患していると推定されています。最も問題なのは、実際に診断されている患者は20万人ほどしかないことです。ほとんどの方がこの病気に気づかず、かなり進行してしまった状態で発見されます。たばこ1日20本を10年継続すると20%、30年継続すると70%が慢性閉塞性肺疾患になります。禁煙が治療の基本ですが、ほかに病状の進行を抑える治療がありますので、長期間の喫煙をしている方はまず検診で肺機能検査を受けてください。症状がある場合は早期に病院を受診し、治療を受けるようにしてください。

～健幸～生き活きウェルネス

コーナー

京丹波町にお住いの皆さんが健やかに幸せに「健幸」で暮らせるように・・・。

国保京丹波町病院では、病気になる前の「予防医療」を大切に

病気を患ってからもその人なりに幸せに暮らせるよう「地域包括ケアシステム」を充実し町民一人ひとりの健幸Wellness—ウェルネス—を目指しています。

院長先生の



Wellnessコラム

垣田 秀治院長



美味しい料理やお酒をいただき、そのあと、あったかいお風呂にゆっくり浸かって心も体もポッカポカ、寒い時期には気持ちいいかもしれませんが、実は大変危険なこともご存じでしょうか。

ヒートショックといって、血圧の急激な変化で時として命を落とすこともあるのです。毎年、お風呂で亡くなる方は5000人以上。2000～3000人といわれる年間の交通事故死亡者よりも多いとされています。

寒い脱衣場では血管が収縮して血圧が上がり、

お風呂で温まると血管が拡張して血圧が下がります。そうした血圧の急激な変化が脳卒中などを引き起こすといわれています。

お風呂での事故を防ぐために、寒い時期は特に以下のことに注意しましょう。

- ・お風呂の温度は41度以下、入る時間は10分以下
- ・食後や飲酒後の入浴は控える
- ・湯船から一気に立ち上がらないようにする
- ・脱衣所を寒くしない工夫をする
- ・寒い時期は少しでも暖かい昼間に入浴する